

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	保育器楽	2	3年	文m②保育器楽選択者

使用教科書	副教材等
なし	バイエルピアノ教則本／音楽之友社

1 科目の目標

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。
②	思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもっている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的な学習に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。
ウ 提出物の内容		

4 学習計画

時期	題材名	学習内容	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
				①	②	③
4 5 6	課題① バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
	課題② ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
	課題③ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
7 9 10	課題④ バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
	課題⑤ ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
	課題⑥ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
11 12 1	課題⑦ バイエル教則本による ピアノ演奏基礎の習得	ピアノ演奏の基礎	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏するための、技術的な力を身に付ける。	○	○	○
	課題⑧ ピアノ演奏に歌唱を伴う楽曲	弾き歌い	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 様々な表現形態による器楽、歌唱の特徴を理解し、表現上の効果等を考え演奏練習する。	○	○	○
	課題⑨ 学期のまとめとして 演奏発表	試験曲の演奏発表	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。 楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅲ	2	3年	文I②音楽Ⅲ選択者

使用教科書	副教材等
『Joy of Music』教育芸術社	なし

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
②	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	
ウ ワークシート等への記述内容	エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

4 学習計画

学期	月	題材名	領域	項目	使用教材項目	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するもの) (○)		
							①	②	③
1 学期	4	☆学校祭での発表に向けて曲を完成させる 発声・合唱	表現	歌唱	《20のソルフェージュ》から10番 発声のためのエチュード 学校祭で歌う曲	・音楽Ⅱからの接続、音楽の学習の仕方を理解する ・安定した呼吸を続け、響きを保つことができる ・既習事項を使い、曲にふさわしい発声ができる ・曲想と歌詞との関わりを理解して、表現意図をもって豊かに歌える	○	○	○
	5	西洋クラシック史	鑑賞		西洋音楽	・時代を代表する楽曲の音楽的特徴を捉えながら、よさや美しさを味わうことができる ・文化的、歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、述べるることができる		○	○
	6	ピアノ連弾	表現	器楽	LINUS AND LUCY	・鍵盤楽器のしくみについて理解している ・鍵盤楽器表現に必要な奏法技能を身につけている ・相手の音楽を聴き合ったり、意見交換したりして、自分の演奏表現技能を高めるとともに、アンサンブルに必要な技能を高めていく	○		○
	7	音楽理論		楽典	調号と主音 関係調	・関係調について理解している ・曲中に登場する調性と、その後の展開による曲の変化について説明できる	○		○
2 学期	9	ヴァイオリン	表現	器楽	ぶんぶんぶん メリーさんの羊	・弦楽器のしくみについて理解している ・弦楽器表現に必要な奏法技能を身につけている ・既習事項を用い、曲想に合った表現について考えることができる ・曲の表現内容やさまざまな表現形態による器楽表現の固有性や多様性を理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫する	○	○	○
	10	創作表現	表現	創作	オスティナートをを用いてピアノ曲をつくらう	・反復、変化、対照などの用語の意味を理解している ・オスティナートのもつ働きを感じることができる ・表したいイメージを、オスティナートやその他の表現形態を用いながら、ピアノ曲を作ることができる	○	○	○
	11	☆外部施設との交流演奏会に向けて曲を完成させる ハンドベル ア・カペラ	表現	器楽	クリスマスソング	・打楽器のしくみについて理解している ・打楽器表現に必要な奏法技能を身につけている ・曲想に合った表現について考えることができる ・曲想と歌詞との関わりを理解して、表現意図をもって豊かに演奏できる ・相手の音楽を聴き合ったり、意見交換したりして、自分の演奏表現技能を高めるとともに、アンサンブルに必要な技能を高めていく ・安定した音程で歌える	○	○	○
			表現	歌唱	聖歌		○	○	○
	12	ポピュラー音楽	鑑賞		ビートルズが残したもの	・ジャンルごとの楽曲を聴き比べ、音楽的特徴について知覚することができる ・演奏者や音楽が社会に及ぼした影響について調べたり意見交換したりする ・自分が好きな音楽のよさを説明できる ・仲間が紹介した音楽のよさを感じることができる		○	○
3 学期	1	☆外部施設との交流演奏会に向けて曲を完成させる 合唱	表現	歌唱	卒業ソング	・これまで習得してきた歌唱に関する技能を高めたり応用したりしながら、自分の表現意図を演奏で表すことのできる技能を身につけている ・歌詞に込められた思いを理解し、それを伝えるように歌うことができる		○	○

令和7年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
舞台芸術	演出研究	2	3	文系(選択者)

使用教科書	副教材等
担当者による	

科目の目標
舞台芸術の理解を深め、演目ごとの演出の違いを確認し、知識・技術の習得を目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	作品を通して演出の特徴を理解し、各単元において必要となる技能を学び活用する。
② 思考・判断・表現	演目の設定を判断し、状況に応じた表現方法を習得する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	舞台芸術に関心を持ち、各分野の事象の考察に活用しようとする。
評価方法	
レポート提出・実技及び授業中の活動の様子を総合的に評価する。	

学習計画						
月	【単元名】	【内容】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③

4	演出研究①	演出の働き	台詞や動作を実演し、「演出とはどういうものか」を考える。	○		○
5	演出研究②	演出による表現の差異について	①異なる演出家による同一作品を研究し、演出の役割を理解する。 ②様々なタイプの作品を研究し、演出の役割を理解する。	○	○	○
6						
7						
9	演出研究③	異なるジャンルの演出法	①歌舞伎・ミュージカル演出の特徴を理解する。 ②新劇の演出の特徴を理解する。 ③小劇場・現代劇の演出の特徴を理解する。	○	○	○
10						
11						
12						
1	演出研究④	演出法の実践	舞台での表現を実践し、演出方法を理解する。	○	○	○

令和7年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
舞台芸術	課題研究	4	3	文系(選択者)

使用教科書	副教材等
担当者による	

科目の目標
舞台芸術の理解を深め、各分野での課題を設定し、知識・技術の習得をめざす。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	訓練を通じて表現法を理解し、様々な分野の脚本に対し、活用できる。
② 思考・判断・表現	演目の設定を判断し、状況に応じた表現方法を習得する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	舞台芸術全般に関心を持ち、各分野でより効果的な表現方法を探っていく。
評価方法	
実技及び授業中の活動の様子を総合的に評価する。	

学習計画						
月	【単元名】	【内容】	単元や題材など内容のまとめ りごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	課題研究①	①舞台構造	舞台表現一般について、分野ごとの特徴を理解する。	○	○	○
5		②演技の基礎	発声・身体訓練の強化			
6		③スタッフ業務	脚本選定			
7			スタッフの業務と受講生の役割分担			
9	課題研究②	選定した脚本を用いての実践	作品稽古を開始し、校内発表の実施	○	○	○
10			発声・身体訓練の強化			
11			スタッフの業務の開始			
12						

1	課題研究 ③	芸術発表会	舞台運営の実践	○	○	○
---	-----------	-------	---------	---	---	---

9 10 11 12	卒業制作（大作） 鑑賞	表現	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習した技法を用いて制作をすることができる。 ・画家の作風や技法などを自由に選び、独自の作品として表現することができる。 	○	○	○
		鑑賞					
12 1	古典技法演習 鑑賞	表現	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・古典表現に関心を持ち、その表現方法やの工夫などを学ぶ。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品のイメージや表現方法を練ることができる。 	○	○	○
		鑑賞					

令和7年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	美術Ⅲ	2	3	三年文0②

使用教科書	副教材等
「高校生の美術3」(日本文教出版)	なし

科目の目標
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・美術Ⅲの学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4	クロッキー	表現	絵画	・形態や量感、質感を短時間で捉えることができる。	○	○	○

4 5	ファブリックデザイン 鑑賞	表現	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・商業製品に適したデザインを考え、主体的に作品にすることができる。 ・形態や質感、質感を意識して創造的な表現の構想を練ることができる。 ・材料や用具の特性を生かして表現を追求できる。 	○		
			鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。 		○	○
6 7	プロダクトデザイン 鑑賞		鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・用途や構造、強度などに着目し、機能と調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取ることができる。 		○	○
		表現	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞から社会とデザインの関係について理解し、自作品に素材や要素を取り入れ、夏休み課題（プレゼンテーションボード）を制作することができる。 	○		
9 10 11 12	大作 (卒業制作) プレゼンテーション	表現	彫刻	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの美術学習で認識してきた作品に関心を持ち、新鮮な視点で対象を捉え直し表現することができる。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品のイメージや表現方法を練ることができる。 	○		
			鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の工夫を感じ取り、作者の表現の意図や主張、体系的に考える鑑賞活動に取り組むことができる。 		○	○
		表現	絵画	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野から選択し、計画を立て大作の制作に取り組む。作品のテーマは自由。 ・主題を効果的に表現するための構想を練ることができる。 ・材料や道具の特性を生かして表現を追求できる。 	○		
			鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。 		○	○
1 2	彫刻 鑑賞	表現	彫刻	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの美術学習で認識してきた作品に関心を持ち、新鮮な視点で対象を捉え直し表現することができる。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品のイメージや表現方法を練ることができる。 	○		
			鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の工夫を感じ取り、ものと場所の関係性、作者の表現の意図や主張などを体系的に考える鑑賞活動に取り組むことができる。 		○	○

令和7年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	絵画(保育)	2	3	3年文o

使用教科書	副教材等
なし	なし

科目の目標
表現技法をはじめとする絵画についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	美術文化を尊重し、主体的、創造的に絵画的表現の学習に取り組もうとする。
② 思考・判断・表現	創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術作品や美術文化などについて理解を深め、感性や想像力を働かせて価値や美意識を感じ取り、創造的に絵画表現のよさを味わっている。
評価方法	
<small>ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述、プレゼンテーション内容 エ 提出物の内容</small> <small>アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。</small>	

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			・美術Ⅲの学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明			
4	イラストレーション	表現	絵画	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストレーションの基礎を学び、そのよさについて理解する。 ・様々な画材を使用した表現技法を学び、その効果を生かして制作する。 ・主題を意識して、表現を追求する。 	○		
5						○	
6							○
7							

		鑑賞	・様々な表現のよさや効果を感じ取り、それぞれの表現の意図や工夫を感じ取り理解を深めている。			
9 10 11 12	仕掛け絵本制作	表現 絵画	・絵本の基本的な構成を理解する。 ・今までに学習した技法や効果的な表現を用いて制作をする。 ・主題やストーリーに合わせ、描画材料や表現技法を選択し、表現を追求して制作する。	○	○	○
		鑑賞	・表現の意図を感じ取り、描画材料や表現技法のよさや工夫を感じ取り、深く味わい、理解を深めている。			

6 7	アイコンデザイン プレゼンテーション	表現	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩効果とメッセージ性があるデザインを意識して図案を練ることができる。 ・タブレット端末を使用して、図案をデジタル作成することができる。 	○		
	鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の基礎を意識したことを読み取ることができる。 ・感情や感覚を表現する形について、創造的に構想を練ることができる。 		○	○	
9 10 11 12	ブランディングデザイン プレゼンテーション	表現	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活の中で、あったら便利な製品を考え、目的や機能などを考えた発想や構想を模型や図で表現することができる。 ・対象となる製品は文具や日用品、家具や乗り物など自由に選ぶ。架空の企業を立ち上げ、製品のネーミングやロゴ、パッケージのデザインができる。 	○		
	鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件などを基に、伝えたい情報をグラフやイラストなどで効果的にプレゼンテーション、主体的に取り組もうとしている。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。 		○	○	
12 1	色面構成 鑑賞	表現	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・形や明暗、構造などの造形的な特徴を基に、色面で捉えることを理解して分割ができる。 ・感じたことや考えたことから作品のイメージや表現方法を練ることができる。 	○		
	鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・ユーモアや絵巻物ならではの表現の工夫を感じ取り、作者の表現の意図や主張について考え、諸活動に取り組むことができる。 		○	○	

令和7年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	素描	2	2	三年文n

使用教科書	副教材等
イチバン親切なデッサンの教科書	なし

科目の目標
造形表現の基礎となる観察力や把握力を深め、形体や空間などの的確な表現力を高めることを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	対象を丁寧に観察し、主体的、創造的にデッサンの学習に取り組もうとする。
② 思考・判断・表現	写実的な表現活動をするために必要な描写や専門的な技能を身に付け、図法や技法、表現方法等を工夫して表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	形体や明暗、量感などについて理解を深め、感性を働かせて価値や美意識を感じ取り、完成された美のよさを味わっている。
評価方法	
<small>ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ ウ ワークシート等への記述、プレゼンテーション内容 エ 提出物の内容</small> <small>アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。</small>	

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	題材など内容のまとめりごとの学	評価の観点		
					①	②	③
4	オリエンテーション			<small>・素描の学習について 授業内容、必要な用具、材料などの説明</small>			

<p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p>	<p>画材について スケッチ、グレース ケール、基礎形体 デッサン</p> <p>身近な静物</p>	<p>表現</p>	<p>素描</p>	<p>・鉛筆表現の基礎について学び、その効果について理解し明暗表現することができる。 ・明暗や質感、量感を感じ取り、鉛筆や木炭表現で写実的に表現することができる。</p>	<p>○</p>		
		<p>鑑賞</p>		<p>・表現の工夫や作者の技法を感じ取ることができる。</p>		<p>○</p>	<p>○</p>
<p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>1</p>	<p>石膏デッサン</p> <p>人体デッサン</p>	<p>表現</p>	<p>素描</p>	<p>・モチーフの明暗や質感、量感を感じ取り、鉛筆で表現することができる。</p>	<p>○</p>		
		<p>鑑賞</p>		<p>・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。</p>		<p>○</p>	<p>○</p>

令和7年度 3年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	書表現	2	3年	選択者

使用教科書	副教材等
「書き込み式 筆ペン字練習帳」 (成美堂出版)	資料プリント

科目の目標
<p>小筆（毛筆）を用いて、生活の中の実用的な書に関する知識や技術を身につけ、書写能力の向上を図る。また、文字を使用した幅広い表現、篆刻・刻字等の諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現及び鑑賞の能力を高め、書の伝統と文化についての理解を深める。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な知識と表現の技能を身に付け表している。
② 思考・判断・表現	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	
ア 練習帳 イ 作品 ウ 実技(小)テスト エ 提出物の内容 オ 授業に取り組む姿勢 などをもとに総合的に評価する。	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめり ごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1	入門	筆の使い方	・道具の使い方を知る			

±	実用書（小筆）	漢字	・漢字の学習（楷書）			
5	篆刻 姓名印の制作	別途資料用意	・篆書と篆刻について理解する ・刀法を理解する ・落款と印について学ぶ	○	○	○
6	商業デザイン	別途資料用意	・うちわをデザインする ・太筆の使い方を理解する			
7	実用書（小筆）	名前	・自分の名前と住所を正しく書く			
9	はがき 慶弔の表書き	はがきの表書き のし袋	・はがきの書式を理解する ・祝儀・不祝儀の書式を理解する	○	○	○
10	創作	別途資料用意	・創作することの意義を知る ・課題を設定し作品をまとめる			
11	刻字／ 鑑賞・原稿制作 木刻	別途資料用意	・現代作家の作品を鑑賞し、表現方法を理解する ・原稿を制作する ・刀法を理解する（彫刻刀） ・陰刻・陽刻について知る			
12				○	○	○
1			・着色し仕上げる			

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	器楽	2	3年	文〇器楽選択者

使用教科書	副教材等
なし	なし

1 科目の目標

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
 (2) 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。
 (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けている。
②	思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもっている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的な学習に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。
ウ 提出物の内容		

4 学習計画

時期		題材名	学習内容	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに○)		
					①	②	③
1 学期	4 5	課題① 選曲	楽曲分析、 選曲	選曲にあたり、様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果等を考え、自らに適した楽曲を選曲する。	○	○	○
		課題② 中間発表	試験曲の発表	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 課題となる点の発見。	○	○	○
	6 7	課題③ 試験曲の練習	選択した楽曲の演 奏練習	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現を目指し練習する。	○	○	○
		課題④ 演奏発表	試験曲の発表	楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○
2 ・ 3 学期	9 10	課題⑤ 選曲	楽曲分析、 選曲	選曲にあたり、様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果等を考え、自らに適した楽曲を選曲する。	○	○	○
		課題⑥ 中間発表	試験曲の発表	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏する。 課題となる点の発見。	○	○	○
	11 12 1	課題⑦ 試験曲の練習	選択した楽曲の演 奏練習	課題となる点を各自が振り返り、改善していく。 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え表現する。 正確な指づかい、適切なテンポで演奏することを心がけ練習する。	○	○	○
		課題⑧ 演奏発表	試験曲の発表	楽曲のイメージを持ち、創造的に表現する。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	声楽	2	3年	文m①声楽選択者

使用教科書	副教材等
なし	コンコーネ50番/全音楽譜出版社

1 科目の目標

- (1) 声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
 (2) 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
 (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている。
②	思考・判断・表現	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる。
③	主体的に学習に取り組む態度	音楽性豊かな表現を追求しようとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察	イ 演奏、作品の内容	
ウ ワークシート等への記述内容		アからウを観点別に見取ったものを総合して評価する。

4 学習計画

月	単元名	学習内容	単元や題材など、内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	発声の基礎	正しい姿勢、呼吸法	姿勢や息の流れ、顔の表情や喉の開きを意識して歌うことができる	○		○
		発声練習	音楽表現のために必要な発声、姿勢や身体の使い方、読譜の仕方などを身に付ける。	○		○
5	発声 課題①	コンコーネ50番より1～5	リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感じる。	○		
			表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
6	テスト①	テスト（コンコーネ）	選択した楽曲について、思いや意図をもって表現しようとしている。	○	○	○
	鑑賞①	オペラ鑑賞	作品の生み出す特質や雰囲気などを感じ、その美しさや素晴らしさを創造的に味わって聴いている。			○
7	発声 課題②	コンコーネ50番6～10	リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感じる。	○		
			表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
9	発声 課題③	イタリア歌曲	独唱曲を原語で歌い、言葉のもつ響きを大切にしながら歌うことができる	○	○	○
			独唱の学習を通し、声楽の専門的な知識と技能を習得し、楽曲の表現方法を学び、創造的に表現する。	○	○	
10	テスト②	テスト（イタリア歌曲）	選択した楽曲について、思いや意図をもって表現しようとしている。	○	○	○
	鑑賞②	ミュージカル鑑賞	作品の生み出す特質や雰囲気などを感じ、その美しさや素晴らしさを創造的に味わって聴いている。 オペラとの発声や発音の違いに気づき、それらの持つ役割について感受する。	○		
11	発声 課題④	コンコーネ50番11～15	リズム、旋律、強弱を聞き取り、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気などを感じる。	○		
			表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	○
12	発声 課題⑤	日本歌曲	イタリア歌曲との表現方法の違いを知覚し、日本語のもつ独自の響き、美しさを大切にしながら歌うことができる	○	○	○
			表現のための思いや意図を持ち、自分なりの表現を工夫する。		○	
1	テスト③	テスト（イタリア歌曲）	選択した楽曲について、思いや意図をもって表現しようとしている。	○	○	○
	まとめ	合唱	日本語の美しさに触れ、豊かに表現する。 アンサンブルに必要な技能や知識を身につける	○	○	○